



女体嗅銃身爆録

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



「あ……あの……指揮官……」

「今日も演習後のエンタープライズを密かに呼び出し、健康チェックという名目で身体を眺める。」

「今日もその……するの……か……?」

「もちろん。大事なことから。」

「両腕をあげ、蒸れた腋を徹底的に視察する。」

「や……やっぱりその……先にお風呂を……」

「いやいや、今の状態が一番いいんだよ」

「ハードな演習をこなし程よく熱をもった身体を観察する。」

「エンタープライズの肢体……特に腋まわりは非常に芳しい匂いを発していた。」

「はい……」

「かも……」

「はい……」

「すんっ……今日もスケベな臭いだなあ……」

「鼻を近づけ、思う存分その香りを堪能する。」

「……あんまり……嗅がないでくれ……」

「こんなエッチなフェロモンを出しておいてか?」

「……うう……」

「戦場では高貴で勇敢な兵器であるエンタープライズも、今この瞬間は指揮官の命令に逆らえない一人の雌である。」

むゆな……♡

「んっ……それじゃあ今日の調子を……」

「ひゃっ……」

「両腕をあげさせたまま、うなじや首、腋まわりを念入りに舌でねぶっていく。」

「今日も健康だな」

「汗とフェロモンが混じり合った脳髓に響く匂いを堪能され、エンタープライズに羞恥を味わわせる。」

「んっ……」

「息と声押し殺し、指揮官の『健康診断』に耐えるエンタープライズ。」

「最近、腋を舐められて感じやすくなっているか?」

「そ……そんなことある訳が……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

ゆるま……♡

ひち……♡

ぶる……♡

「そうか……それにしても俺がこうして舌を這わせるだけで身体を震わせる頻度があがっているようだが」

「そんな……はあ……そんなこと……」

「やはりエンタープライズ本人は気づいていないが、腋が性感帯として着々と開発されているようだ。普段から存分に露出しておいて、無自覚な淫乱女だ。」

「ちょ……ちょっと指揮官……そんなに嗅がないですよ……」

『いやいや、めちゃうくちゃいい匂いだし……』

私は今日も指揮官の部屋に来ている。

新米の私には最近知らされたことだけど、

どうやらここに配属となった子たちはこうやって

交代で指揮官の性欲を処理していく決まりがあるらしくて……

「指揮官ってさ……その……においフェチってやつ？」

「うん」

「うう……そんなノータイムで……」

さつきからずうつと私の身体を嗅ぎ続ける指揮官。

日課の訓練が終わってからお風呂に入らずに来てって言われたけど
まさかこういいうことになるなんて……



「もっ……もう……本当に恥ずかしいんだから……」

『そんなことないって……ああ……瑞鶴の身体は柔らかいなあ……』

「ちょっ……腰、擦り付けないで……」

お尻のあたりに指揮官の……熱いアレがぐりぐりって……

ていうかこういいうこと、お姉ちゃんもされてるのかな……

……お姉ちゃんはどうなのかって聞くのは
恥ずかしいからいっか……

『おっ……二回目ッ！』

ビュッ……びゅゅ……

「ええっ……？また腋に射精すの……？」

私の腋で見抜き……？っていうのをやって

一人ですつとしごいてると思ってるなら……

腋にぶっかけたいだなんて……

「ね……ねえ指揮官……こういいうのって普通なの？」

『おお……もちろんもちろん』

「そ……そう……」

ホントかなあ………なんかすつごく

ヘンタイなことしてる気が……



まあ……指揮官が私の身体で興奮して

うまく処理できているなら………びゅ

悪い気はしないんだけど。

うう……でもぐちよぐちよにされるのは

慣れないわね……

指揮官の……その……ニオイがすごい……

「んむっ……ちゅっ……こう……？」
指揮官のお尻の穴を舐めながら、指揮官のモノを
胸で挟み扱き続ける。

うめき声とともにお尻をぶるぶると震わせていて、
直接の返事がなくても気持ちいいのが伝わってくる。
先走りて出来た汁と汗でぐちよぐちよになった
私の胸を、指揮官の……肉棒がかき分けていく……

「んっ……むっ……ちゅっ……ひきかん……」
そんな動かれたら舐めにくい……」
さつきから小刻みな腰の動きが激しくなってきた……

「ちゅっ……ずじゅっ……うんっ……」
もう射精そうなの……？」

んむっ
ちゅっ
ずじゅっ

むいゅ

ぱちゅっ ぱちゅっ

ピンッ ピンッ ピンッ ピンッピキゅっ

へこへこ腰を振りながら合図を送ってくる指揮官。
ああ……また射精されちゃう。私の胸に直接……
乳内射精っていうんだっけ。
あっ……指揮官の……びくびくって……
くるっ……熱い精液きちゃう……
私の胸……汚されちゃう……

ビュルっ！びゅぶっ！どぶっ！
びゅぶるるるるっ……！！
「んっ……うっ……ちゅっ……」

ぷちゅっ……んくっ……」
射精の音を聞きながら、お尻の穴を舐め続ける。
私が舌をかき入れる度に、大きくびくんと跳ねて
射精の量が増えるような感じがした。

私の胸の中で大きく暴れるような動きから、
少しずつ大人しくなっていくのを肌で覚える。
「んっ……ふはっ……気持ちよかった？」

小さな震えとともにびゅるっ……びゅぶっ……と
まるで代わりの返事と言わんばかりに射精で反応する指揮官。
「全部出していいってね……んっ……ちゅっ……」
最後の最後まで射精してもらったために
ぐっつと胸と抑え強めに舐めてあげる。

んむっ
ちゅっ
れんげんげん

グビュッ
グビュッ

ビクっ びくっ

ぐちゅっ……！ぬちゅりっぷちゅっ……
部屋中に卑猥な水音が響き渡り、卑猥な高揚感をもたらされる。
射精の瞬間なんだか指揮官から小さな声で
好きって聞こえた気がするんだけれど……
私の胸とか、こういうプレイが好きってことなのかな……
いろんな子が交代で処理してるっていうことは、
あのグレイゴースドもこういうことを……
私の方が気持ちいいって言うってもらえるように
これから頑張らなくちゃ……！！



「どうだ指揮官？この角度でいいか？」
「あっ……はいっ……最高です……」
「はいずり？と聞いたときは要領を得なかつたが紅葉合わせのことだったのだな。此れなら知つてゐる。実際にやつたことはないが、他にも四十八手等は知識として抑えてはゐる。指揮官の性欲処理に役立てられるのであれば、存分にふるわせてもらおう。」

「にしても……我はこのまま何もしなくてもいいの？」
「はっはい……俺に任せてもらえれば……」
「三笠さんの胸、お借りさせていただきます……！」
「そうか……文字通り、胸を借りるといふ表現だな！
我にできることがあるばなんでも言うといい。指揮官の性欲を処理するのもこちらの仕事である以上、他の子にも負けない働きをしてみせようじゃあないか。」

ぽん♡ たぶっ♡ ぽん♡



「うつく……三笠さんっ！そろそろ射精しますっ！」
「そうか。見届けてやるから、存分に放つといいぞ」
「うっ……ああっ！」
「ビュッ！ビュッ！びゅー！びゅー！」
「ふふ……私の胸の中で弾けているぞ……」
「うっ……うっ……三笠さんっ……三笠さんっ……？」
「遠慮するな……全て射精しきるまで、抑えていてやる」

「……これで全部か？」
「はあっ……はあ……はい……すみません……」
「ちよつと胸……強く握っちゃつて……」
「構わないさ。指揮官の普段見れない表情も堪能できたからな」
「うっ……」
「こういつた休息も大事なことだ。普段指揮官は頑張っているからな。褒美のようなものと思えばいい。射精したくなつた時は、いつでも我に頼っていいからな。ふふっ……」

びゅっ♡ ビュッ♡

「ふふ……ご主人様、いかがでしょうか？
私の胸……おっぱいは？」

「……返事を聞くまでもありませんね。」

「私の腕と胸としばりあげたと思ったら、
縦バイズリによるお仕置きとかなんとか……」

「ベルファストは何か粗相をした覚えはありませんが……
こんな胸をしているのが悪い、というのでありませんか……
甘んじて罰をお受け致しますしょう。」

「ご主人様の熱いモノがベルファストの胸を犯しておりますね。
往復するたびにぐちゅっ……ぐちゅっ……と……
卑猥な音を立てております。摩擦も大きいですね。」

「いつでも射精して構いませんよ？」

「ご主人様の性欲処理もメイドの努めです。
ご要望がありましたらいつでも応じさせていただきますので。」

「さあご主人様、立派なお射精をお見せください。
お望みでしたら、カウントダウンなどいたしましょうか？
ふふっ……」

ふにゅっ
むにゅっ

ぽんっ ぽんっ はちゅっ ぶちゅっ

「はい……射精ですね。どうぞ、ご存分に。」

「びゅーっ……びゅっ……びゅっ……」

「ふふふ……すごい勢い……」

「全て射精しきるまで、何度でも腰を打ち付けてください。」
「ベルファストが、すべて受け止めてさしあげます。」

「本日は趣向を凝らしたプレイなだけに
いつもより精液の量が多いようですね。」

びゅるる
びゅるる

「ご主人様が望まれるのであれば
今日のようなコトも臨ませていただきますので、
いつでもお声掛けくださいませ。」

ぽんっ ぽんっ はちゅっ ぶちゅっ

「うっ……くっ……あっ……」
「ウイチタさん？調子はどうですか？」
「くっ……馬鹿者……っ！」

「知ってるんですよ……そんなカオしてるけど
気持ちいいんですよ……」
「あっ……はあっ……そんな訳……」
「腕は縛ってあるけどそれだけなので
逃げようと思えば逃げられるんです……
でもそれをしないのはウイチタさん自ら
気持ちよくなってるからでしょ……」
「うっ……うるさいっ……これはなっ
貴様に盛られた薬のっ……せいでっ……」
「身動きがとれないって言いたいんですか？
自分でも腰を動かしているように感じるんですけど」
「黙れっ……黙れえっ……あっ……」

パン！パン！
パン！パン！

「そうそう……さっきウイチタさんに飲ませた
薬ですけど……あれ、本当は
媚薬でもなんでもありません」
「っ!?何をッ……!?」

「ただのビタミン剤ですよ……だから今
ウイチタさんが感じているのは完全に
ウイチタさんのせいっ！」
「ああ……そんなっ……嘘を……ッ」
「うっ……射精するッ！」

「あっ……待ってそんな今っ今射精されら
射精されたら……おっ……おほっ……
ほおおおあああああ……っ……」
「ふう……最高の名器でしたよウイチタさん……
そろそろ自覚したらどうですか？腋も胸も
犯されている時のウイチタさん、本当に
気持ちよさそうでしたよ？」
「エッチが大好きな重巡洋艦ですってじぶんで
言ってみてくださいよ」
「そんな……おっ……そんなあ……」

ボッ！

ブルブル！！
ブルブル！！

「すう……すう……」
「効いてるよな……睡眠薬……」
「はあ……近くで見るとやっぱりめっちゃ美人だ……」
「加賀さん……寝込みを襲うような真似してごめん……でもっ……」

「はあ……はあ……ごめん……」
「どうしても我慢できなくて……」
「普通にお願いしてもよかったんだけど、寝てる時も趣があるというか……」
「こんな言い訳聞こえるわけないか……」
「すう……ふう……はあ……加賀さんのうなじ……」
「首元……全部いいにおいする……やばい……」
「めっちゃくちゃムラムラする……」
「寝てる加賀さんのおいをオカズにオナニーするなんて……すげえ贅沢……」
「あぁ……加賀さあん……すう……ふ……」

「肌は白いし髪はサラサラだし近くで見るとやっぱりすごい加賀さん……」
「うっわ……おっぱいでっか……」
「この腋のラインもすごく綺麗で……」
「すう……いい匂いすぎる……」
「ほんのり汗が混じって、しっとりした肌ざわりになってやばい……もう射精しそう……」

「あ……あ……加賀さん……射精……」
「やばい……この腋とおっぱいにぶっかけ……」
「起きちゃうかな……いやでも……」
「もうやばい起きたら謝るごめん加賀さん……」
「ビュッ……ビュッ……ビュルル……」
「あ……はあ……すう……ふう……最高……」
「加賀さんの体臭に包まれながらの射精……」

シコシコシコシコ

ぐり ぐり

すう……

すう……

すう……

ぱたぱた……

ぬちゅ……

ふわ……



「うーん今日はどうしようかな」
「はあっ……はっ……ロングアイランドっ……!」
「おーそーういえばこのイベント明日までだったか
周回しなきゃ」
「ううっ……気持ちいいっ……ロングアイランドのまんこっ……」

「指揮官、気持ちいい?」
「おうっ……最高っ……最高だぞ……!」
「そっかーえへへよかった。いつでも射精していいからね」
「ううっ……ありがたいんだけど……」
「え?うーんロングアイランドもいい感じだよ」

「指揮官のちんちん、小さすぎて
挿入ってきた時に気づかなかつたぐらいなんだけど
シヨック受けそうだから言わないでおこ……」

「いいっ……ううっ……すきすき
ロングアイランドっ……ロングアイランド……!」

ぽんぽんぽん

ぽちゅっ ぽんっ



「ふうーっ……ふうーっ……すう……
ロングアイランドの髪い……いい匂いっ……」
「そーおーありがと」

「ふっふっ……ふうっ……ふっ
ロングアイランドっ……そろそろっ射精るっ」

「おーいいよー今日ははやいね」
「んんぐっロングアイランドーおっばい触っていいっ?」
「お好きにどうぞ。おっ動画更新されてる」

「はあっ……はあーっ……ロングアイランドお……
好きだあ……好きっ……おっばい柔らかいぞ……」

「んーありがと」
「ロングアイランドも指揮官すきだよ」

「まっマジ?ほんとに?もっと言っで?」
「すきすき最高」
「ううっ……ロングアイランドお……」

ふっ
すき

ぽちゅっ
ぽちゅっ

ぽちゅっ ぽちゅっ

「射精るっ！射精るッ！
ロングアイランドッ！
好きっ！」

ビュルッ!!

「ん〜。」

「うわ〜またレアかあ〜……」

びゅっ…

びゅっ…♡

びゅっ…♡

ズビュルッ!!!

「ふう……ふう……射精たあ……」

「ありがとぅ……」

「ん、お疲れさま〜」

「ロングアイランドはどうだった？」

「ん〜ロングアイランドも気持ちよかったよ〜」

どろまっ…

おんが…♡

「また射精したくなったらいつでも
使っていていいからね〜」

うふふ……指揮官くん
すっごく気持ちよさそうな顔してるわね……
私のおっぱい、どうかしら？
毎日お疲れだろうから、今日はしっっかり
全部吐き出していいってね？

それにしても、指揮官くんがこんなにおっぱい好きとは思わなかったわよ？
ふふっ……膝の上でしごいてあげたり
いろんな角度からこすり付けたり……

今日はこうやって馬乗りになってパイズリ……
私のおっぱい、指揮官にもみくちゃに
されちゃついでいるわ。うふふ……
射精したい時にいつでも射精していいからね？
気持ちよさそうな指揮官くんの顔、じーっと眺めてるのも
案外楽しいものだよ。

めっちゃ♡
めっちゃ♡
パイズ♡
ぽちゅ♡
ぽちゅ♡

はーい、びゅーっ……びゅーっ……
うふふ……どんどん射精してくるわね……
一番心臓に近いところだから、
すっごい熱を感じるわ……
気持ちいいのね。

指揮官くん、このタイミングで言うのもなんだけれど
私、指揮官くんの部屋に置いてあるあのエッチな本……
全部見せてもらったわ。うふふ……びくってしちゃって。
あれで隠せてるものだと思っただけ？ あらあら……
そんな驚いた顔しないで。大丈夫。
指揮官くん、私が思ってたよりおっぱい好きなのよね？
次はあの本に描いてあったゴト、してみよっか？

びゅーっ……
びゅーっ……
びゅーっ……
びゅーっ……
びゅーっ……
びゅーっ……

女体嗅銃身煉錬





フェチ視点

ダッ

ラ
ン

グ

レ

ー

先

ダッ

生

ダッ

ダッ

ダッ

ダッ

ダッ

!!

ズガッ

子供体型なのに
オトナの香水の
匂いするのすき！

ちよっ
こらっ！

ムワッ

はあゝゝ
オトナフェロモン
の臭い

ハアス

ああゝゝ
ラングレー先生の
臭いでイク！！

び
やるるる

フツ濃いの
射精るる！！

るるる



ちんちんの臭いを
嗅がれている方が
仕事が捗る？

バカなんですか
指揮官

いえ馬鹿に
してるんですか？

こんなひどい臭い
人に嗅がせて！

モロ

モロ



一時間後

ちよっちよっと
指揮官

はあ...すう...

じょ冗談
ですよね？

こんな...ッ
一日中なんてっ

モロ



四時間後

ゆるっ

ゆるひて
ひきかんッ!!

あたま...
へんに...ッ

モロ


モロ...

日本上陸性的概念美少女艦隊激戰歷史筐體激的爆誕射爆襲來
性癖性的正中線六段突全開美少女整列並列射精列爆發的興味
至健康理由行動開始即射爆了絳綾波選択射精精製生成精子感
初建造完了人力企業來訪瞬間射爆桃源鄉的性的腋大腿景色压
感压卷召使女性侍女鈴速女史中之人好好声優堀江由衣女史大
好昔々悠久好精子放出每日送信電子海性的春画性的画像模索
日夕探求探索春画然性的春画全然無全然見無泣泣顏面強打中
自作春画代行絵描絵卷収録当同人誌発行理由至理由爆誕理由
自作春画同人誌觸発他指揮官達啓発觸発自作春画描画希望刷
描希望入力企業恋愛性的優世界的同人誌超癒性的射爆了絵本
描希望待女鈴速女史恋愛性的御主人樣性欲处理待女的努絵本
描希望横乳黒子冷静女横乳胸部性的使用逆寝込指揮官肉絵卷
春画提供希望瑞鶴胸部睡眠姦翔鶴併内緒性欲处理玩具狀態本
同人誌希望永邪楠様脚舐腋舐舐御奉仕子豚気分堪能受身絵卷
恒久的平和希望当同人誌国交親交友好本希望架橋性的射爆絵
精子精液金玉汁希望当絵卷春画同人誌国交平和交流絵卷数々
当概念超絶高級精子発射絵卷全世界使用橋発展希望謝謝茄子




嗅
舐
好





◆今回、選抜に悩んだけど今回お蔵入りとなった
三枚を無理やりねじこみました。
こちら三枚は後ほどファンティアや
どこかで清書できればな…と思います。

■立ち絵の時点で性器モロ見せで
エッチな誘惑してくる日向すき



■エイジャックス様。改は我が艦隊のエースでございます。
こう…ローブみたいな取っ払ったら下はノースリーブみたいな
めっちゃうちゃ好きなんです。加えてこういう手袋みたいな
完璧です。長手袋だったらもっと完璧。黒なら最高。白でも大歓迎です。
手袋はニーソックスにならぶエッチパーツだと思ってます。

■エイジャックス様、パッと見た感じテンプレドSお嬢様キャラかなと思いきや
意外と可愛らしい女の子の一面があって普通に指揮官好きなのがわかってかわいいなど。
イタズラとかに付き合っただけでこっちが身体痛めたらわりと素で心配してくれそうな感じ。
アズレンの子は基本最初から指揮官のことうっすら好きって子たちが多くて嬉しいです。

女体嗅舐射爆録

アホくさロゴデザイン：ゆっこ(@yukko84)

おくづけ 女体嗅舐射爆録

発行日 2017/12/31
発行者 有都あらゆる
印刷所 マツモトコミックサービス様
連絡先 husumasuma@outlook.jp
Twitter @arito_arayuru
サイト blog.livedoor.jp/arito_arayuru/

■この本の転売・複製・違法アップロード等をご遠慮ください。

I wholly prohibit the following acts concerning this book:

- Uploading on website or any other social media.
- Putting up for auction (such as Yahoo! auction,eBay).
- Resale

Thank you for your cooperation.

An illustration of a muscular arm, likely belonging to a character, shown from the shoulder down to the hand. The skin is a light tan color with shading to indicate muscle definition. The arm is positioned on the left side of the page, with the hand pointing towards the center.

まよいスターズ